

## 伸び悩むオーストラリアの酪農業界

### 顕在化した構造的な課題

オーストラリアの酪農業界が伸び悩んでいる。今シーズン(2021年7月～2022年6月)のオーストラリアは、例年を大きく超える降水量に恵まれ、農業生産には理想的な気候条件が整っている。連邦政府系農業シンクタンクのオーストラリア農業資源経済科学局(ABARES)によると、穀物は過去最高の豊作が予想され、牛肉生産量も過去10年間の最低水準から反発する。羊毛価格も続伸の見込みだ。しかし酪農に関しては、全国の予想生乳生産量は前年からわずか0.5%増えるにすぎない。盛り上がりを見せるオーストラリアの農業界の中で、出遅れた格好の酪農業界だが、低成長の背景には肉牛の高価格化や高い労働コストなど、構造的な課題が垣間見える。農業界に大きな影響を与えた5年前の干ばつを起点に、その背景をひも解いてみる。

### オーストラリアの国土と干ばつについて

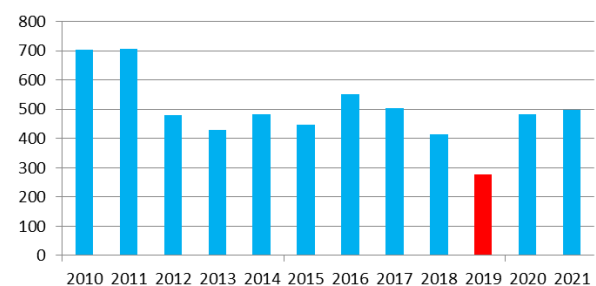
オーストラリアは日本の約20倍という広大な国土に、2560万人(日本の約2割、2020年)が居住する。国土の大部分は乾燥し、人口の75%は東西の沿岸部に集中する。また、乾燥地の農業にとって重要な灌漑は、東部のビクトリア(VIC)州からニューサウスウェールズ(NSW)州、クイーンズランド(QLD)州に跨がるマレー・ダーリング水系地域(流域面積106万平方キロメートル)に集まり、国内農業生産の約4割は同地域で営まれる。生乳の生産もVIC州が中心で、生産シェアの6割以上を同州が占める(\*1)。

「人が居住する最も乾燥した大陸」とも言われるオーストラリアは、過去に幾度となく干ばつに襲われた。オーストラリア気象庁(BOM)は干ばつを、水の使用者の通常の需要に応えられない長期に渡る異常な水不足と規定し、直近では2017年から2020年初頭にかけて発生した。特に2019年の平均降水量は277ミリに落ち込み、長期平均の465ミリを大きく下回った。実に54年ぶりの少雨で深刻な水不足が発生した。(\*2)

マレー・ダーリング水系地域



オーストラリアの年間平均降水量



単位:mm

出所:BOM

2017～2019年にかけて降水量は減り続け、豪農業界に深刻な影響を与えた

2017年に始まった干ばつに、オーストラリアの農業界は甚大な打撃を受けた。2017/18年

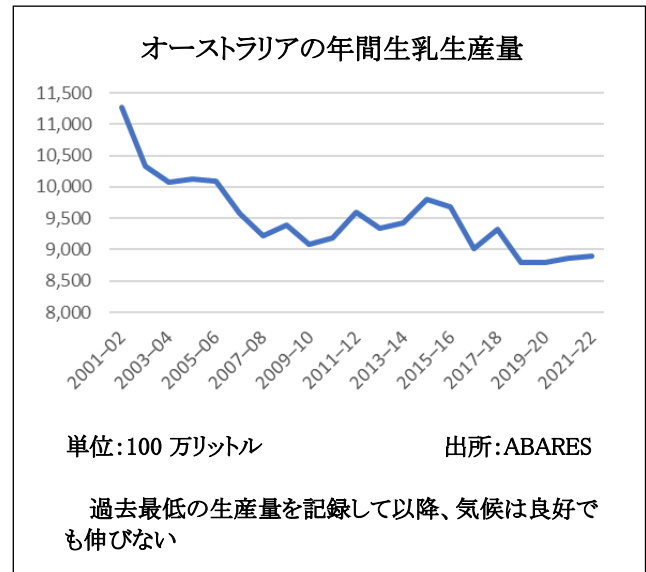
度の穀物(小麦・大麦など冬作物)の全国生産量は 3700 万トンにとどまり、前年度を 41% も下回った。翌 2018/19 年度も 3780 万トンと低空飛行が続いたことで(\*3)、穀物の供給不足が家畜飼料の不足につながり、飼料価格は例年の 3 倍に急騰した。また極端な少雨でマレー・ダーリング水系も干上がり、灌漑水価格は 1 メガリットル当たり 800 豪ドル(1 豪ドル=約 83 円)と、例年の 100 豪ドルから跳ね上がった。オーストラリアの酪農は 9 割が放牧による飼育だが、牧草の生育も絶不調だったことは言うまでもない。

こうした生産条件の悪化で、酪農家の収益は極端に悪化した。当時食品小売市場のシェア 7 割を占める大手スーパーが、牛乳の販売価格を 1 リットル当たり 1 豪ドルという生産コスト以下の低価格に据え置いたことも相まって、特にVIC州北部では酪農家 1 戸当たりの平均収益はそれまでの 15 年間で最悪の状況となる 8 万 5000 豪ドルの赤字に落ち込んだ。農業系銀行ラボバンクのアナリストは当時「酪農経営を左右するマージン(利益率)は、飼料を十分に確保できるかが鍵になる」と指摘した上で、「酪農家のマージンはしばらく低水準が続く」と予想した。こうした状況の中、同地域の酪農家は、比較的多い降雨が見込め牧草や飼料の入手可能性が高いとされた同州南部に移動するという、いわば「さまよえる酪農家」というべき現象も発生した(\*4)。

酪農業界団体デーリー・オーストラリア(DA)は当時、「VIC州の酪農家は飼料の入手が著しく困難となり、乳牛数を減らすしか選択肢がない」と宣言。実際に当時は国内で 8 万頭の乳牛が売却され、10 万頭が輸出されたとみられる。輸出頭数は例年比 113%も増えただけでなく、若雌牛が多く含まれたことからその後の生乳生産量に影響が出た。

## 生乳生産量が過去最低に

こうした干ばつの影響で、2018/19 年度は 7 月の酪農シーズン開幕以降、生乳の月間生産量は前年実績を下回り続けた。終盤の 2019 年 5 月には前年同月比で約 14%減少し、最終的に同年度の国内生乳生産量は 87 億リットルで過去最少に沈んだ。



一方で過去最少の生産量による生乳需給の逼迫は、乳業加工会社サイドに対し、生乳の買い取り競争を引き起こした。乳業会社が酪農家から原乳を買い取る際の価格である生産者乳価はこの年、6.64 豪ドル(乳固形分 1 キログラム当たり)で、2 年前の 5.46 豪ドルから急上昇した。破格の 8.95~9.38 豪ドルを提示した乳業会社もあったとされる。

この背景にあったのは、各社工場の稼働率低下だ。ラボバンクによると、業界全体の乳処理能力の総容量は現実の生乳生産量を 20 億リットルも上回っているとされた。各社は工場の稼働率を上げることを最重要課題とし、高額な乳価を提示しても生乳を買い入れざるを得ない状況となった。地場大手のベガ・チーズは、2019/20 年度の生産者乳価をシーズン前に 6.60 豪ドルと予告していたが、シーズン開

始間もない8月にこれを同6.75豪ドルに引き上げ、灌漑水補助金や長期契約ロイヤルティを加え7.12豪ドルを提示した。この引き上げを巡っては、証券会社モーガンのアナリストが「適正水準を大幅に上回る生産者乳価を提示している」と分析した。

## 乳業界の再編

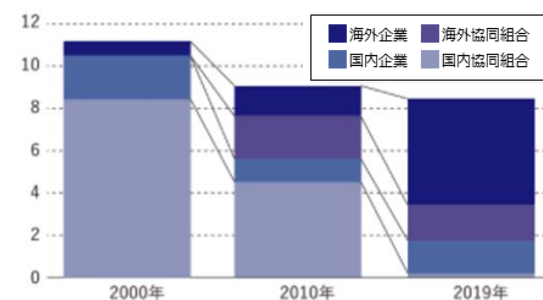
また、乳業工場の稼働率低下問題は乳業界の再編をもたらした。キリンホールディングスは2018年10月、オセアニア子会社ライオン(Lion)傘下で、競争激化により売上げが低迷していた乳業ライオン・デーリー・アンド・ドリンクス(LDD)の放出を決定する。LDDはその後、一旦は中国の乳業大手、蒙牛乳業(Mengniu Dairy)に6億豪ドルで売却が決定するも、「中国のこそこそした買収」(バーナビ・ジョイス元農業相)、「日本企業とは異なり、全企業が中央政府に義務を負う国に、オーストラリアの『戦略的資産』が集中することは問題」(アンドリュー・ウィルキー議員)といった懸念が政界から強く示され白紙撤回。最終的に地場大手のベガ・チーズの買収につながる。

蒙牛乳業は豪中摩擦のあおりを食った格好だが、VIC州の乳業バラ・フーズ(Burra Foods)の79%の株式を取得、さらに同業のベラミーズも買収しオーストラリア市場により深く食い込んだ。カナダ系乳業大手サプートもLDDのチーズ部門を2億8000万豪ドルで取得。一方で食品大手ネスレはVIC州の乳処理工場の閉鎖を決め、さらに創業124年を誇った酪農企業ブランコートも、所有する2工場の売却を決めた後、自主清算した。一連の流れで、オーストラリアの乳業界の集約が進んだ。

またこの時期に、オーストラリアの酪農業界における外資系企業の影響力が増し、反対に地場の協同組合が運営する乳業会社は急速

にその存在感を薄めた。2019年に発表された酪農業界の構造改革を目指す取り組み「オーストラリアン・デーリー・プラン」では、「国際的に存在感のある地場の乳業会社が少ないことが、オーストラリアの酪農が弱体化する一因」と指摘している。

オーストラリアの生乳生産量と乳処理業者の事業主体の推移



単位:10億リットル 出所:デーリー・オーストラリア

## 待望の雨、沸き立つ業界

このように生乳生産量の減少を招き、オーストラリアの酪農乳業界に広く影響を与えた干ばつだが、2019年10月にBOMは初めてその終息の可能性を伝えた。同年末には国土の広い範囲で山火が発生し、被害金額(保険金請求額)が23億豪ドルにも上る深刻な被害をもたらした。だが2020年に入ると予報通りまとまった雨が降り始め鎮火に至る。2020年1月の全国の平均降水量は89.1ミリで平年値を12%上回り、2月も84.7ミリと同じく11%超えた。

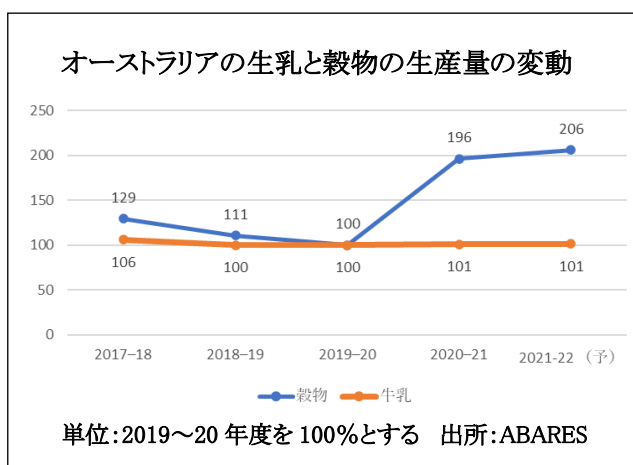
この年初来の雨により土壌が十分な水分を蓄え、オーストラリアの農業界は干ばつの終了に沸いた。最終的に同年の年間平均降水量は483ミリで、前年から74%も増加することになるが、4月の時点で東部州は地中の0.1メートルより深い下層土壌の水分量が、この時期としては非常に多くなった。これにより穀物生産者は生産拡大を指向し、全国の作付面

積は 2250 万ヘクタール(ha)と前年から 23% 広がり、2020/21 年度の穀物の生産量は、それまでの 3000 万トン台から一気に 5000 万トン台に急増した。

酪農業界でも当初、生乳生産量は大きく増加すると予想された。ラボバンクは 2020/21 年度を生産量を、90 億リットルの大台を超えると見込んだ。例年以上の降雨の増加予想が根拠で、高騰していた飼料価格の低下と牛の解体処理コストの上昇、マレー・ダーリング水系の灌漑水価格の下落が生乳の生産拡大を下支えするとされた。

### 失望と3つの課題

だが、終わってみると 2020/21 年度を生乳生産量は 88 億 5800 万リットルで、前年に比べ 0.7% 増にとどまり、大台を超えることはできなかった(\*5)。



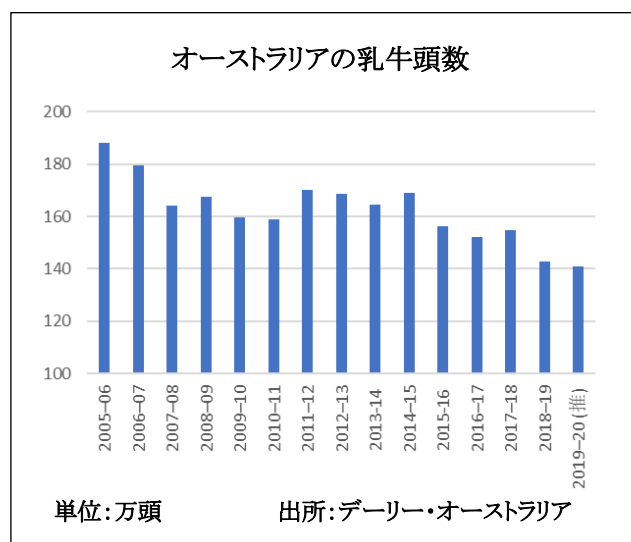
この年の気候条件は予報通りで雨が多く、牧草や飼料も豊富で水の価格も低下した。稀にみる好条件だったものの、生乳の生産増加に結びつかなかった。期待が大きかった分、停滞に業界の失望も大きかった。生産者団体ユナイテッド・デーリーファーマーズ・オブ・ビクトリア(UDV)のマンフォード代表は「人生で最高のシーズンの一つ」で、「本来なら生乳生

産量は 5~10% 増加するはず」と述べている。

この低成長を巡り、業界団体 DA は 2021 年 6 月、「状況と展望」レポートで牛の高価格化、労働力不足、放牧への切り替えの 3 点が生乳生産量増加にかかる課題と指摘した。

オーストラリアの乳牛数は 141 万頭(2020 年)で、2014 年の 170 万頭から 30 万頭減少した(\*6)。乳牛数は長期的に減少傾向にあるが、特に 2018/19 年度にかけての 1 年間で約 11 万頭も大きく減った。この減少は干ばつによる高コスト化で、酪農家が乳牛を処分せざるを得なかったことを示すが、干ばつの終息後も頭数の回復は思うように進んでいない。

この背景には、生産条件が整ったことで酪農家が雌牛を購入しようとしても、乳牛の価格が高く損益分岐点も上昇、利益を生むまでの期間も長期化したことがある。また、反対に牛の価格上昇により乳牛の食肉化が酪農家にとって経済的に意味のある状況になったことも大きいとされる。



牛の高価格化は、オーストラリアの農業生産高の約 2 割を占める最大産業の畜産業が主導した。畜牛価格は干ばつが終わった 2020 年初頭から現在も過去最高値を更新し続け、指標価格は 2021 年までの 1 年間で 54%

上昇、過去 2 年間では倍になった(\*7)。酪農と畜産の両業界は現在、干ばつで大量処分した牛群の再構築期間に入り、家畜市場に牛が供給されない状況で、需要がほとんど満たされないことが高価格化の背景にある。

DA はまた、高水準の肉牛価格に魅力を感じた一部の酪農家が、収入の安定化を目的に乳牛の処分を進めていることも指摘した。このことは酪農業界が進める乳牛頭数の回復のペースを遅らせることにつながる。実際に 2021 年 4 月の食肉向け乳廃牛価格は、過去の 5 年平均を 23% 上回っている。

DA のアナリストは、良好な気候条件にもかかわらず、乳牛数の少なさが影響し生産量の大幅増加は実現しなかったと説明した。

また、労働力不足も課題となった。乳牛 500 頭以上を飼育する酪農家の 49% が移民労働者に依存し、うち 7 割が新型コロナウイルス感染症による国境閉鎖で必要な労働力を確保できないと訴えた。DA は影響を受けた一部生産者が事業の多角化を進め、酪農業を離れることも、生産量の伸びを抑制する一因と指摘した。また、コロナの影響以外でも、オーストラリアの酪農業界の労働コストは世界最高水準にあることが、農業分析会社レッド・スカイ・アグリカルチュラルの 2020 年の調査で判明した。オーストラリアの労働コストは乳固形分 1 キロ当たり 1.33 豪ドルで、NZ よりも 33% 高く、米国を 49% 上回っているという。同社は「高コスト体質が利益率を引き下げ、生乳生産量を減少させることにつながる」と指摘している。

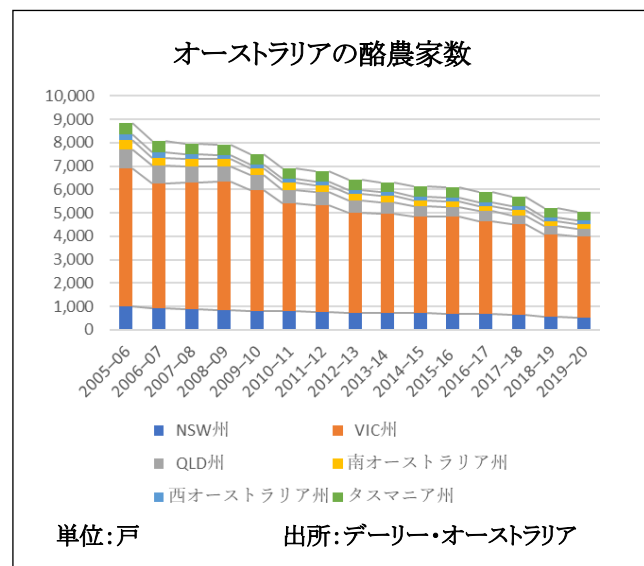
さらに、豊富な雨で牧草が順調に生育したことで、酪農家の多くは乳牛の飼育を飼料から放牧へ切り替えた。放牧はコストが安い半面、牛 1 頭当たりの乳量は減少すると言われる。このことも生産量の増加の重しとなった。

## 減少する酪農家

もう一つ、この時期のオーストラリアの酪農業界に特徴的なのは、好調で強気な畜産業界が酪農場を買収するという動きだ。全国の生乳生産量の 6 割のシェアを誇るVIC州は南西部で過去 2 年間、40 カ所以上の酪農場が買収され業態を変更した。同州の酪農関係者は「牧草が豊富になった酪農場は畜産業者に『包囲』されている」と語る。

VIC州酪農食品安全局(DFSV)の調査では、同州の酪農家が 2020/21 年度中に 10 戸に 1 戸の割合で廃業したことが判明した。同年度の酪農家の数は 3088 戸で、1 年前の 3462 戸から 374 戸が減少。全体の 1 割以上の酪農家が経営の継続を諦めたことになる。

酪農業界団体オーストラリアン・デーリー・ファーマーズ(ADF)は「ほかのコモディティの強さを考えると、この状況は意外ではない」と指摘する。



酪農家の減少はVIC州だけにとどまらない。過去 10 年間で約 300 戸の酪農家が廃業し、現在の約 500 戸にまで落ち込んだNSW州は、州議会上院委員会が 2021 年 5 月に「最近の良好な季節条件にもかかわらず、家族経営型

酪農家は一定の比率で廃業し、新たな農家が酪農業界に進出することは非常に困難な状況」と報告した。QLD州も同様に 550 戸から 300 戸に減った状況だ。

最新の情報では全国の酪農家の数は、2014 年に 6128 戸だったが 2020 年までに 5055 戸と 18%減少した(\*8)。

DA のアナリストは「生乳生産量の減少を契機として生産者乳価は堅調になった。だが労働力などのコストの上昇が酪農家に経済的な立ち位置を考え直すきっかけを与えている」と述べた。

市場では、酪農家の減少による生乳生産量の停滞により、国内の乳製品需要を満たすことはできても、輸出に制限をもたらすという指摘も出ている状況だ。

## 低成長の原因

これまで見てきたように、オーストラリアの酪農業界には、乳牛数の減少や労働コストの問題といった生産量増加の重しになる複数の要素が存在する。だが一方で悲観的な話ばかりではない。

特徴的なのは、酪農家の大規模化だ。酪農家 1 戸当たりの乳牛飼育頭数は 1985 年に 93 頭だったが、2020 年には 279 頭と 3 倍に拡大(\*9)。また最近では 700 頭以上を飼育するような巨大酪農経営体が生まれる傾向も出た。経営の規模拡大は効率性を引き上げ、良好な気候条件による収益をより一層強化する。

DA が酪農家の生産性を調査した「デーリー・ファーム・モニター・プロジェクト (DFMP)」によると、VIC州の酪農家の 2020/21 年度の利益 (EBIT、利息及び税金控除前利益) は平均で、42 万 2000 豪ドルと 6 年ぶりに最高額を更新。総資産利益率 (ROA) も 5.7% と、前年の 5.4% から上昇した(\*9)。

中でも干ばつ時に「さまよえる酪農家」と化した州北部の酪農家は、直近 15 年間で最高益となる 50 万豪ドルの利益を計上。収入は 4% 減少したものの、気候の好条件により飼料の購入コストが 27% 減少した上、より多くの牧草が収穫 (25% 増) できたことで飼料への依存度も低下 (12% 減) し、利益が拡大した。また、今後の見通しについて、州全体で 75% の酪農家が楽観的に捉えていることも判明した。

NSW州でも、2020/21 年度の酪農家の利益は 47 万 1437 豪ドルと過去 10 年間の最高額となった。2021/22 年度に関しても、71% の酪農家が増益を予想し、減益と予想した酪農家はいない。また、将来の懸念事項として、気候条件を挙げた酪農家が 44% で、労働力が 17%、乳価が 15% だった。コスト懸念に関しては、干ばつ時に見られたような飼料や水ではなく、直近の尿素的値上がりに見られる肥料代の上昇が最も懸念される事項となった。

以上のことは、経営を継続した個々の酪農家は気候条件の変化を巧みに克服し、自らの農場経営に成功していることを示す。

国内生乳生産の停滞に見られるような豪州酪農業界全体の低成長の理由は、乳牛価格と肉牛価格の高騰、高い労働力コストといった、酪農経営の構造に起因する複合的な課題によるもので、オーストラリアの個々の酪農家のパフォーマンスそのものが悪化したためではない、ということを示している。

その一方で、経営を規定する要因が多様で複雑であるという酪農生産の構造的な特徴ゆえに、外部環境の変化によっては想定以上の変動に見舞われることもあり、豪州酪農もまた、その持続可能なあり方が改めて問われていると言えよう。

**参考資料:**

- 1) [https://www.dairyaustralia.com.au/resource-repository/2020/09/25/milk-production-report#.YeI\\_M\\_7P3cs](https://www.dairyaustralia.com.au/resource-repository/2020/09/25/milk-production-report#.YeI_M_7P3cs)
- 2) <http://www.bom.gov.au/climate/current/annual/aus/#tabs=Rainfall>
- 3) <https://nna-au.com/kokumotsu/92621/>  
冬作物生産量は 36%減 昨年末からは上方修正=ABARES(ウェルス 2018 年 2 月 16 日付電子版)
- 4) <https://nna-au.com/rakunou/100347/>  
酪農家、雨を求め南を目指す(ウェルス 2019 年 9 月 27 日付電子版)
- 5) <https://www.awe.gov.au/abares/research-topics/agricultural-outlook/data#agricultural-commodities>
- 6) <https://www.dairyaustralia.com.au/industry-statistics/cow-and-farms-data#.YeJmhv7P3cs>
- 7) <https://www.mla.com.au/prices-markets/>
- 8) <https://www.dairyaustralia.com.au/industry-statistics/cow-and-farms-data#.YeII1v7P3cs>
- 9) <https://www.dairyaustralia.com.au/industry-statistics/cow-and-farms-data#.YeNonf7P3cs>
- 10) [https://www.dairyaustralia.com.au/dairyns/industry-statistics/dairy-farm-monitor-project#.YeK\\_Cv7P3IU](https://www.dairyaustralia.com.au/dairyns/industry-statistics/dairy-farm-monitor-project#.YeK_Cv7P3IU)

(資料閲覧:2022 年 1 月 1 日~1 月 15 日)

(取材執筆:オーストラリア在住 湖城 修一)